

鹿背山の里地里山を守り育てる活動

鹿背山倶楽部代表 長尾 輝治

京都府

はじめに

京阪奈丘陵に位置する木津地区の鹿背山は自然環境や歴史文化資源に恵まれ、周辺には学研都市構想に基づき、新しい街づくりが進んでいます。国民の自然志向意識が高まるなかで、日本の大切な農文化を構築する里山の再生活動が住民主体のボランティア組織で行われています。鹿背山においても、2005年から「鹿背山倶楽部」を立ち上げ、関西学研事業本部の支援のもとに地元住民と新しい街に移り住んだ人達と連携して、里山大好き人間が集まり、活動を楽しんでいます。

活動目的の一つは竹の伐採です。京都議定書の発効に伴い、良好な森林の再生が大きな課題です。水田や畑労働の放棄に伴う竹の異常繁殖は里山域まで進入し、森林の生態系や景観を破壊しています。竹藪化した竹を伐採して、良好な雑木林や竹林を再生し、多様な生物が棲息できる里山環境の場づくりを目指しています。

農活動としては米づくりを苗床づくり、代かきと田植え、夏場の除草、稲架づくりと稲刈り、脱穀と舂すり、収穫したもち米での餅つきなど1年を通じて、手作り農体験を楽しんでいます。畑地では季節の野菜類を栽培して、子供達には芋ほりや小麦の収穫体験を楽しんでもらい、季節ごとに収穫出来たものを食材として料理することなど、自然の歩みにあわせた、一昔前の農生活スタイルを満喫しています。

里山活動は社会問題化している環境教育や情緒教育の場として、今日的な課題である団塊の世代の居場所づくりとして、また、街づくりの観点から、自然の中で活動できる場が身近なところに存在する新しい住まい方を提言、実践できるなど、社会的にも大切な役割を担う活動です。

1、竹や笹類の伐採

鹿背山地区でも放置された田畑やその周辺の森林部に竹や笹類が繁茂蔓延しています。多様な生態系を再生するためには単一の生態系を出現さす竹や笹類の伐採を行う必要があります。皆伐を行った跡地では雑木林の再生のために苗木を移植し、また実生を採取して播種を行っています。良好な里山林を形成することで、多様な生物が生息出来、身近なところでの小動物との触れ合いの場が出来ることを目指しています。一方、整理伐を行うことで食材としてのタケノコの育成や良好な里山景観を創出する竹林の再生を目指しています。



・里山林に異常繁殖した竹藪の間伐活動



・竹林内でのタケノコの収穫

竹の材としては、冬季の伐採で敷地内の施設の整備や活動日の食器類、竹馬や竹トンボ、水鉄砲の竹細工、竹炭材、野菜づくりの添え竹や棚づくりほかに利用しています。夏季の伐採は根絶を目指す目的の時にいき、適宜の伐採としては農事の稲刈り後の乾燥の稲架用ほかに利用しています。竹の種類としては孟宗竹、淡竹、真竹と笹類に分類されている篠竹が確認出来ています。

2、古代米づくり

里山活動で注目されているのが、米づくりの農事作業体験です。田植えや稲刈り体験は都会生活で得ることの出来ない自然との触れ合いや大地の感触を味わうことが出来る機会でもあるために多くの人達に関心をもっています。農事体験は環境教育や情緒教育のためにも大切なことです。田植えや稲刈りだけでなく、農事には汗を掻く辛いことや収穫の楽しみ、助け合う行事などの多くの作業があります。集う人達が協働や語り合う中で意思の疎通を図り、多くのことを学ぶ場になり、ゆとりのある生活を実現することが出来ます。

私達の米づくりは農事体験活動です。古代米づくりを行っています。一般には赤米、黒米、緑米の3種が栽培されています。日常に食している米と比べて、それぞれ特徴があります。稲穂の色が赤味や黒紫、濃茶をしています。結穂時の田は里山の彩りを醸し出す一構成要素の役割を十分に発揮しています。籾には長い芒があります。稲丈は長いのが特徴ですが、倒伏対策ほかで品種改良され、日常米品種並みのものが多く用いられています。脱穀した原米は赤味や赤黒、茶味を帯びています。精米すると白くなり、日常米と変わりはありません。糠となる部分に多くの栄養価が含まれているそうです。赤米は「赤飯」、黒米は「おはぎ」の起源と言われています。



・ 1列に並んでの手作業による田植え



・ 楽しい稲刈りと稲架掛け作業

3、季節の野菜づくり

自然の中で、土と向き合い作業する楽しさや生長していく野菜を見守り、手入れをして、収穫し、食する喜びを実感できるのは畑地作業です。経験や手間をかける程度に合わせて何を栽培するかを決めています。根菜類は比較的、手間が掛からず、収穫を楽しむことが出来ます。私達は近くの園児に「イモ掘り」体験の場を提供しています。いい思い出になっているようです。小麦の栽培も行っています。収穫した小麦は煎って、麦茶として使用していますが、粉にしてパンやうどんづくりに利用したいと思っています。収穫できているものはゴーヤ、キュウリ、枝豆、ハクサイ、シシトウ、ピーマン、エンドウ、オタフク

マメほかで、期待はずれはタマネギ、トマト、トウモロコシなどです。イノシシに荒らされたり、収穫間際に野鳥に食べられたり、無農薬栽培であるために病虫害が多く発生したりして満足いく収穫はできませんが、これも自然との共生体験です。収穫出来たものは昼食時に料理して、楽しんでいます。野菜づくりは経験者の指導が必要です。



・子供達と共に麦の穂摘み



・畑でのジャガイモの収穫

4、ビオトープづくり

子供達の環境教育や情緒教育の場として、身近に小動物を観察できるビオトープづくりを行っています。鹿背山地区は豊かな自然があり、自然観察には優れた環境です。子供達が自然界の摂理を観察する場づくりが目的です。この地での体験が擬似ではなく、現実であることを知ることから命の大切さと死が後戻りできないことを身をもって体験してほしいと思います。池づくりの掘り作業は機械を使わずに手作業で進めています。重労働で大変ですが、活動を楽しみながら続けていきたいと思っています。作業中に珍しい「タウナギ」が出現しました。冬眠中の様でした。色々な出会いがあるでしょう。これからは導水路づくりや防水シート張り、埋め戻し、植物の移植などを行い、モニタリングをして、記録して行きたいと思っています。



・ビオトープ池づくりの測量



・ビオトープ池の掘削作業

5、高齢化社会への対応

団塊の世代の職場離れ（2007年問題）は川柳にもなるほどに、その対策が大きな課

題となっています。働くことを使命とし、趣味を持たずに過ごして来た世代にとっては「第2の新しい人生」に戸惑をもっている人達も多いと思います。職場での緊張生活から開放されて、これからの生活を自然に恵まれた中でスローライフを楽しむのも一つの選択だと思います。私達の活動は多くの人に「里山活動の場」を提供し、参加することで精神的にも、身体的にも健康な潤いのある時間を楽しんでもらうことです。このような人達の里山活動でのニーズは高まっています。しかし、何かをしたいと思っても情報が無い。あってもどうしていいのかわからない人達のために、活動内容をホームページを立ち上げて紹介しています。(ホームページは「鹿背山倶楽部」で検索できます)



・高齢者も野菜づくりに精を出す



・若者に混じり元気に竹の整備

6、新しいライフスタイルの提案

過去50余年の新しい街づくりは社会背景や住む人達の要望、年齢構成の変化に合わせて、理念や手法も検討され、ゆとりや緑豊かな潤いのある日常生活の実現を目指して計画・実践されてきました。屋外生活の主な行動の場であるオープンスペースは幅広い年齢層に対応する中で、乳幼児親子の休息や遊び、児童の運動、子供達の球技ほかを主にして作られてきた。しかし、公共施設であり、完成後の維持管理は行政側に依存することから、利用に関しては「禁止事項」に拘束されて、自由度のない使用となっています。土いじりや草花を植えることも出来ない、火を使うことも出来ない、林の中にも自由に近寄ることも出来ない、水辺に近寄ることも出来ない等の「活動をしてはいけない」場となっています。自然の中で、いろいろなことが出来る場が求められています。身近なところに里山活動の場があることで多様な活動に気軽に参加できて、新しい街だけの完結型ではなく、周辺の里山で楽しむことの出来る「里山包括型」になることで、より一層ゆとりのある新しいライフスタイルの生活を実現することが出来ます。又、里山の再生や地域住民との交流で地域の風土や文化を知ること、小さいながらも環境問題への対応や地域コミュニティの醸成にもなります。里山活動は、これからの社会生活の一つの課題に取り組んでいると思います。



・暖を取りながら昼食時の談笑



・満足顔で参加者の記念写真

会員の属性（2011年度）

年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代			
		2	5	6	23	6			
男女	男性	女性							
	37	5							
居住地	京都府	木津川	精華町	奈良県	奈良市	大阪府	その他		
	2	17	2	2	12	4	4		
新旧住民	ニュータウン内		旧市街地		その他				
	28		4		10				
現地までの所要時間	20分以内		40分以内		60分以内		60分以上		
	28		4		4		4		
職業の有無	現職者		定年退職者		その他(主婦等)				
	15		24		3				
里山活動の経験の有無	有	無							
	18	24							
参加目的	森林管理		稲作		野菜づくり		植物観察		
	20		17		16		13		
	野鳥ほか観察		木工細工		ビオトープ		健康		
	7		5		5		22		
	食育		その他						
	5		5						

- ・会員数は42名で個人記入アンケートを行い集計した。
- ・「現地までの所要時間」は車での所要時間とした。
- ・「参加目的」は複数回答可とした。

平成23年6月の活動

ドクダミの白い花が咲く中で、第75回「鹿背山倶楽部活動」を6月18日（土）に17名の参加で行いました。楽しみにしていた田植えと畑でのジャガイモの収穫、畦路の草刈りほかを行いました。定期活動日（11日）が雨のために、中止となり、1週間遅れの活動となりました。

待ち遠しかった田植えを行いました。しかし、苗床で育てていた稲苗が紋枯病菌？で葉が茶色くなり、使用できなくなりました（育成管理の課題を残しました）。残念でしたが、幸いなことに地元の方から黒米とヒノヒカリ米の稲苗を多く譲り受けることが出来たことで、予定の田植えをすることが出来ました。感謝です。朝から小雨が降る中で十分に溜まっていた水を抜きながら、レーキとトンボで代かきと草取りを行いました。水の感触を楽しむ者や足を取られて、四苦八苦する者もいましたが笑い声が飛び交う中での作業でした。張られた糸の目印のところに植付けていきますが、揃わないのが我が倶楽部の良い所？でもあり短所です。手植えも慣れたもので、約2時間余りで1反ほどの田植えを終えました。今年は事前に会員が準備作業をしていたことで、短い時間で田植えが出来ました。黒米は約2畝ほどでした。



・トンボやレーキほかを使用しての代かき



・子供たちも大人と並んで田植え

今回は近くの朱雀小学校（奈良市）のこどもと親4組が参加してくれました。子供達の応援は大いに歓迎です。都市生活では出来ない体験です。子供達の自然との触れ合い体験の機会が少なくなってきました。小さいころからの情緒教育や環境教育が求められており、この里地里山で過ごした時間が役に立てばと思います。これからも親子共々に楽しんでもらえば幸いです。

畑では手入れと収穫を行いました。ジャガイモとムラサキジャガイモ、ニンジン、キュウリを収穫して、昼食の食材とし、残りは手土産としました。

畦路の機械草刈りも行いました。時間が許す限りの活動となりましたが、繁茂した雑草との戦いをこれからも、続けたいと思います。



・ジャガイモ収穫後の耕耘と除草

【観察した生物】 アザミ、イチモンジチョウ、モンシロチョウ、シオカラトンボ

平成23年7月の活動

シモツケの桃色の花が咲く中で第76回「鹿背山倶楽部活動」を7月9日（土）に17名の参加で行いました。畦路ほかの機械草刈りと水田の稲への施肥、畑での除草、里山林の整備ほかを行いました。夏時間で1時間早めて、午前中の活動でしたが、肌を射す陽ざしの中での1日でした。

繁茂した雑草の機械草刈りを行いました。草刈機の刈り刃を全て新しいものを使用して、休憩所周りや水田への畦路沿い、新しく畑地として使用する予定地を行いました。約50CMに生長した雑草の刈り取りは一苦勞でした。活動範囲の足元周りの雑草刈りは小動物や有害動物との棲み分けから、欠かすことの出来ないこの時期の作業です。



・よく伸びた水田横の雑草の機械草刈り



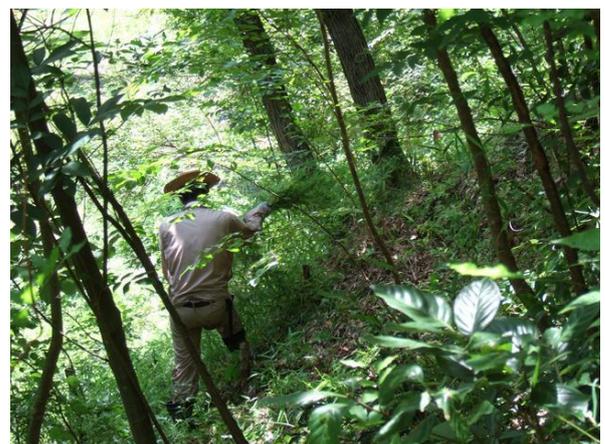
・水田の肥料散布と畦部の機械草刈り

放流したカスミサンショウウオの幼生も水中で確認することが出来ました。泥の中に潜ったり、縁の草陰にいました。少し大きくなったようです。

水田の稲は根付いたようですが、分桔はまだのようです。モグラの穴か、水田の水漏れがあり、仕切り材で塞ぐ処置を行いました。この時期の作業として肥料散布を行いました。畑ではサツマイモやトウモロコシ、キュウリ、トマト畝周りの除草を行いました。



・畑でのサツマイモ畝の除草作業



・里山林内の低木伐採と下草刈り

里山林のよく伸びた若竹の伐採と下草刈りを行いました。若竹はもう約10mに伸びていて、鮮やかな光沢のある深緑色でした。足元に注意して行いました。集積地に運びましたが、以外とこの時期の竹は水分を十分に含んでいて、重く感じました。

【観察した生物】アメリカザリガニ、ドジョウ、イチモンジチョウ、アオサギ、ツバメ

平成23年8月の活動

ヒマワリの大輪が咲く中で第77回「鹿背山倶楽部活動」を8月6日（土）に13名の参加で行いました。畦路ほかの機械草刈りと畑での除草と耕耘、水田の草取りを行いました。定期活動日がお盆に重なることで1週間早めての活動でした。1時間早めて、午前中の活動としましたが、真夏の照りつく太陽の下での1日でした。

畦路沿いや畑予定地、水田周りの畦に雑草が繁茂しています。刈り払い機での草刈りを行いました。草刈りはこの時期に欠かすことの出来ない活動ですが、雑草が異常なほど、元気に繁茂しています。刈り払い機はプラグの交換や刈り刃の取替え、刃先の研磨、刃元のグリスの補給など小まめに行い、作業の効率が図れるようにしました。また、熱中症に注意して、水分補給と休憩を取りながらの作業となりました。9月ごろまでは活動日ごとの作業となります。



・畦路沿いの機械草刈り



・秋植え準備の耕耘とサツマイモ畝の除草

畑では除草と秋植え野菜の準備の耕耘を行いました。収穫後の畝も雑草が繁茂していました。手作業と鋤で除草を行い、堆肥を施して、耕耘機で耕耘を行いました。活動日前に会員が保管していた干しネギの植え付けを行い、今回、キントキニンジン（キンニン）の播種を行いました。トウモロコシは収穫が間近です。野鳥による食害を防ぐために、防護網を被せました。今年は収穫を楽しむことが出来そうです。サツマイモは暑さに負けずに生育しています。トマトやキュウリ、ナスビは収穫時期が過ぎたようで、成りが少なくなりました。

水田では水草のコナギが異常なほどに繁殖していたために、手作業で草取りを行いました。曇り空の下でしたが、温む水に足を取られて、暑さと腰の疲れに耐えての作業となりました。前回に除草したところも、再度しなければならないほどに水草が生育しているところもありました。稲は分結が遅れていることでコナギが生育し易い条件があるようです。水を抜き、土用干しをすることにしました。



・腰の疲れに耐えての手作業の除草

【観察した生物】ツマクロヒョウモン、ウラギンシジミ、ヒメコガネ、ハグロイトトンボ、シオカラトンボ、ナツアカネ、ミスジチョウ

平成23年9月の活動

オニヤンマが飛翔する中で第78回「鹿背山倶楽部活動」を9月10日（土）に15名の参加で行いました。水田周りや畦路ほかの機械草刈りと防護柵の設置、畑の手入れ、新しく使用する畑地の機械耕耘ほかを行いました。

水田の稲は結実しています。黒米は稲穂が下垂し始めていますが、ヒノヒカリ米は、まだ直立状態です。ところが、黒米の一部に獣（イノシシか？）が進入した足跡があり、踏み倒されていました。去年は獣害のために収穫が激減しました。味を覚えたことで早々に出現した可能性があり、急遽、次回の活動日に予定していた防護柵を設置することにしました。水田周りの畦部の雑草を刈り取り、古い竹杭の取替えや囲いの範囲を変更したことで新しく竹杭の設置をしました。巻いて保管していた防護網を出入り口部を基点にして、順次巻き戻しながら1周しました。竹杭と防護網は杭の上部に切り目を入れたところに、網の上に通したビニール親紐と網の一部を挟んで結束しました。地際部もビニール紐で杭に結束し、弛みのある部分については半割り竹を打ち込んで進入を防ぐ処置を行いました。しばらく様子を見て、進入の痕跡があれば即に対処したいと思います。



・水田畦の竹杭の打ち込み



・防護網を敷設（天端をビニール紐で結束）

休憩所周りや畦路沿いの雑草も機械草刈りを行いました。本当に雑草は元気に茂ってきます。会員の方が活動日以外にも自主的に機械草刈りを行っていますが、追いつかず、活動日ごとの大切な作業になっています。

畑ではダイコンの播種を行いました。鍬で耕し、表面を平らにして、2列に蒔き、籾殻を被せて灌水を行いました。カブラとハクサイは幼芽を出しています。干しネギやサツマイモは順調に生育しています。サツマイモの収穫は10月の定期活動日に行なう予定です。子供さんの参加は大いに歓迎です。

新しく使用する駐車場後の畑地の耕運機による耕耘を行いました。少し雑草が生えていましたが、土は粘性も少なく畑土としては適しているようです。



・ダイコン種子の播種前の畝整備

【観察した生物】 ショウジョウバツタ

平成23年度10月の活動

ヤマハゼが紅葉し始めた中で第79回「鹿背山倶楽部活動」を10月8日（土）に18名の参加で行いました。

秋の楽しみであるサツマイモの収穫を行いました。今年は夏場に葉が虫食い状態でしたが、良く茂ったことで比較的良作でした。大きいもので径約8cm、長さ約20cmもあり、手ごろな大きさのものが多く収穫できました。掘り取り後の畝は堆肥を施し耕耘して、秋植え野菜の下ごしらえをしました。

新しく耕作予定地の耕運機による耕耘作業を行いました。活動日以外の日にも会員が自主的に草刈りを行ない、廃棄竹やごみ類を焼却して、整備しました。土は透水性も良く、畑土としては適しているようです。



・サツマイモの収穫



・新しい畑地の耕運機による耕耘

ガマズミの赤い実が映える中で第79回「鹿背山倶楽部活動」(その2)が10月22日（土）に20名の参加で行いました。

秋の収穫の楽しみでもある稲刈りを行いました。前夜の雨で足元がぬかるみ、稲も雨に濡れて、作業は一苦労でした。昨年はイノシシ被害にあったために、防護柵を何度も補強したことで最小限に留めることが出来たようです。刈り取る前の作業として、稲架用の竹材を切り出し、枝を切り落として、支柱と渡し横材を作りました。支柱は3本組として、2つの水田の間の比較的広い畦に2列で組み立てました。さて、稲刈りです。水田内は一部に水溜りがあり、長靴を吐いての作業となりました。今回は田植えにも参加してくれた奈良の小学生の親子4組や会員の子供も参加しての活動となり、和やかで笑い声が聞こえる中での稲刈りとなりました。刈った稲は揃えて、干しわらや紐で結束しました。稲架に掛ける作業は稲が濡れていたことで、手元や服が濡れての作業でした。無事に今年の稲刈りも終わることが出来ました。脱穀と籾摺りは地元の方の協力を得て、11月の活動日に行う予定です。



・母親が見守る中で子供達も稲刈り

【観察した生き物】コオイムシ、アメリカザリガニ、ヤマトシジミ（チョウ）

平成23年11月の活動

山柿の実が色づく中で第80回「鹿背山倶楽部活動」を11月12日（土）に13名の参加で行いました。

使用している水田が地力の衰えや夏場の水草の繁茂で収穫量が少なくなっていることで新しく水田地を2面整備することにしました。夏場に機械草刈りを行いました。処分していなかったことで耕運機が枯れ草を巻き込み作業が難しく、再度、機械草刈りを行いました。雨水を含み、草丈が長く草刈機の作業も重く、一苦勞でした。刈り取った枯れ草類をレーキでかき集めて、積み上げ、保管することにしました。次回以降に機械耕耘し、畝や導水路を整備します。

畑ではソラ豆とエンドウ豆の誘引の添え竹の設置を行いました。苗に沿って支柱を立て、間に葉のつた枝を立て、結束固定しました。

林内は雑木林の紅葉も始まり、落葉林の生態を呈してきたことで、色々な種子が芽生えてきています。多様な植生が再生できるように、少しでも拡大していきたいと思えます。



・刈り取った草の集める



・足場に注意しての急斜面での下草刈り

＊11月15日（火）に脱穀と籾摺りを行いました＊

12日（土）予定であったが、前日の降雨の為に中止となった脱穀と籾摺りを行いません。今年は稲の分結が少なく、籾の穂数も少ないようです。地元の富永勝さんと富永禎一さんに協力をお願いして行いました。自走式の脱穀機を水田横に据え付けて、稲架から稲束を手渡しで運び、行いました。稲束を機械に通すと勢いよく、籾が袋の中に溜まります。今年は稲束を比較的小さくしたことで、未脱穀籾は少なくて済みました。昼食後に保管していた籾摺り機を休憩所の広場に運び出し、据付けをして、籾摺りを行いました。動力機は平ベルトが使用できるもので、富永さんにお借りしました。籾摺り機と連動固定して、作業を開始しましたが、上手く作動しないことで幾度も点検をして調整をして、無事に今年の米の収穫作業も終わることが出来ました。玄米で3袋（約90kg）の収穫でした。



・水田横に自走式の脱穀機を据え付けての脱穀

平成23年度12月活動

樹木の木立が目立ち始めた中で第81回「鹿背山倶楽部活動」を12月10日（土）に39名の参加で行いました。午前は恒例の餅つき大会と午後は場所を変えて、親睦を兼ねた忘年会を行いました。

餅つきは今冬一番の寒い朝の中で火をおこし、湯を沸すことから始まりました。焚き木材は事前に用意したクヌギや伐採した竹を使用しました。大鉄鍋で湯を沸かし、もち米の蒸し用の窯に火を入れて、蒸し釜の湯を沸かしました。もち米は購入した約30kgで、前日に水とぎをして、浸しておいたものです。蒸しは農家から譲り受けた木製の蒸籠で、竹製のこを敷き、荒めの布巾を重ね、約2キロのもち米を中心部を空けて入れ、3段重ねで行いました。暖めて置いた花崗岩の石臼に蒸籠から蒸し米を入れて、杵で米粒を潰す練りをして、搗きを行いました。杵は会員の手作りで少し重めのものや農家から譲り受けたものを使用しました。餅つきのポイントは杵取りと搗く人との呼吸が合うことです。杵取りは多少経験のある者が自主的に行いました。陽ざしが射しだした里山で、威勢の良い掛け声が響き、搗きが早過ぎたり、タイミングが合わずにヤジが飛ぶ中で、大人に混じり、参加した子供達やお母さん達も杵で搗く楽しい体験をすることが出来たようです。搗きあがった餅は小分けして、あん餅やきな粉餅、大根おろし餅、納豆餅、醤油餅で搗きたて



・里山にこだまする掛け声の中での餅つき



・小餅を作る餅の丸め

を味わうことが出来ました。会員が用意したモモギや紅エビ、サツマイモの3種を入れた餅も作りました。白い餅との彩りがよく、好評でした。予定よりも1時間ほど長くかかりましたが、雨にも降られずに、無事終了することができました。全員で後片付けをして、お餅を手土産に解散しました。

午後は場所を変えて、忘年会を行いました。約2時間の懇親でしたが、今年の思い出や新しい年への思いなどを楽しく、熱く語り合いました。

この1年は楽しく、いい汗をかき、語り合えました。来る年も私たちの活動が地球環境問題や生物の多様性修復への取り組みであることを意識して、続けます。



・談笑の中での懇親の忘年会

平成24年1月の活動

センリョウの赤い実が映える中で第82回「鹿背山倶楽部活動」を1月14日（土）に15名の参加で行いました。初詣で今年の安全と豊作を祈願し、雑煮で祝いました。

新春の挨拶の後、恒例の恵比寿神社への初詣をしました。参道が笹や雑草で覆われていましたが、事前に会員が自主的に刈り取ったことで、足元がぬかるんでいる所もありましたが、大きな障害物も無く、20分ほどで神社に到着することが出来ました。全員が活動の安全と豊作を祈願して、参拝しました。今年は過去に奉納された絵馬を、初めて見学することが出来、古くは明治や大正時代の奉納されたものでした。

新しい水田予定地の機械耕転を行いました。昨年まで使用していた水田の地力が落ちてきたことや水草が繁茂し、収量が少なくなってきたことで、新しく2段下の放棄水田地を整備することにしました。春までには導水が出来るようにしたいと思います。

畑では春植えの準備として、耕転と畝づくり、施肥（元肥）に併せて石灰も施しました。ミズナ、ハクサイ、ネギの収穫を行い、一部は雑煮（昼食）の食材としました。2月中ごろから春植え野菜の植え付けを行います。



・恵比寿神社への初詣の参道の山道を歩く

果樹園予定地が斜面裾にあるために、湧水や表面水が集まることから、排水溝掘りの作業をしました。多く水分を含んでいたことで一苦勞でした。これからも、活動日には続けて行いたいと思います。休憩所横のキウイが昨年の夏場の水不足で2本枯れたことで、会員が提供してくれた雌株と雄株1株ずつを移植しました。

竹の伐採と切り出しを行いました。雑木林の再生が少しずつ進んでいます。廃棄竹は焼却処分としました。（焼却の届出は地元の消防署に提出済みです）

昼食は正月の祝い膳として、雑煮とちらし寿司でした。雑煮は焼き切り餅に鶏肉、収穫したハクサイとダイコン、シイタケ、コイモ、ニンジン、紅白蒲鉾の切り身でした。ちらし寿司は紅エビにちりめんジャコ、シラス、オオバにシャケフレーク掛けでした。穏やかな里山での正月の宴の祝膳でした。



・畑の施肥と畝作りと溝掘り



・竹の伐採と切り出し

平成24年2月の活動

梅の花芽が膨らみ始めた中で第83回「鹿背山倶楽部活動」を2月11日（土）に17名の参加で行いました。新しい水田の耕耘と整地、竹の切り出し、畑での畝づくり、花木の移植ほかを行いました。曇り空の下で寒さを感じながらも、気力で活動した1日でした。

使用していた水田が地力の低下や夏季の水草の繁殖で収穫が減少してきたことで、新しい水田地を整備することにしました。繁茂していた雑草は前回の活動までに刈り取り、集積して、1回目の機械耕耘を終えていましたが、再度機械耕耘を行いました。地ならしの整地はスコップや鍬を使って手作業です。土方作業は日頃、余り体験していないために、「一休み」を多くしての作業でした。また、雑草や笹の根部が地中に残っていたために、取り除きましたが、笹の根は横に長く這っているものもあり、引き抜くのに一苦勞でした。次回の活動日にも整備を行い、水平を確認してから導水を行いたいと思います。

竹材としての切り出しを行いました。この時期が適期です。斜面地であるために足元に注意して、伐採し、女性陣も参加して運搬を行いました。下ろした竹は枝払いをして、竹材として集積しました。適しないものや不用なものは焼却処分としました。これからの活動の中で利用します。

畑では畝づくりとエンドウ豆の誘引を行いました。通路部の土を畝部に掘り上げて、酸性中和の石灰を施し、周辺の排水溝掘りも行いました。春植え野菜の植え付け時期までに全体の整備を終えたいと思います。エンドウ豆とソラ豆の生長に伴う誘引作業を行いました。ジャガイモの植え付けは3月の始めに行います。

休憩広場にあったノウゼンカズラの移植をしました。広場を有効に使用したいとの意向によるものです。苦勞して、大きめに植え鉢を掘りましたが、移動時に土が落ちて振るい根状態になりました。山柿のある月見縁台の南側に移植しました。活着するでしょう。



・新しい水田の人力による整地



・急斜面地での竹の切り出し



・エンドウ豆の誘引

平成24年3月の活動

つくしが顔を出し始めた中で第84回「鹿背山倶楽部活動」を3月10日（土）に17名の参加で行いました。ジャガイモの植え付けと竹炭用のモウソウ竹の切り出し、カスミサンショウウオの移設の水溜まりづくりほかをしました。朝方まで降り続いた雨も上がり、春の息吹を肌で感じての活動の1日でした。

ジャガイモの植え付けを行いました。今年はキタアカリの種イモを10kg購入しました。有志が事前に用意した半切りのジャガイモに灰を付着させた約120個を植えました。畝をレーキで均して中央部に三角ホーで溝を作り、約30cm間隔で灰付着部を下にして、間に堆肥一握りほどを施しました。その後に土を被せて、軽い目に鍬で押さえました。雨後で土が水分を含み粘性を持っていたことで、足元を気にしての作業となりました。これから芽摘みや土寄せを行い、6月ごろには収穫できるでしょう。



・ジャガイモの溝掘りと植え付け



・竹炭づくりのモウソウ竹の切り出し

竹炭を作るためのモウソウ竹の切り出しを行いました。モウソウ竹林が急斜面にあるために、フィールドスパイクを装着して、注意して行いました。伐採後に広場に運び、枝払いをして、径10cm以上の部分を約80cmの倍数の長さで玉切りをしました。これから、80cmに切り揃えて、縦に4～6分割し、乾燥させて、活動日に朝から火入れをして、炭焼きを行いたいと思います。竹炭を使う用途は色々ですが、燃料や水の浄化、消臭乾燥材に使用することが出来ます。また、ご飯を炊く時に入れておくと美味しいご飯が出来ると言われています。会員やイベントの来客者に配布します。

カスミサンショウウオの新しい水溜りづくりを行いました。新しく水田として使用中にあったために専門家の意見を聞いて移設することにしました。隣接して草地と林部があり、湧水が多く出て、常に水量が確保できる場所です。昨年に続き、今年も子供達を対象にして、5月頃に幼生の放流イベントを行う予定です。



・移設場所の水溜りづくり